

段階 1	行為者	内容
Proposal Review（研究計画構想）		・学位を申請しようとする者は、研究計画の段階で、「課題研究構想ワークショップ（"Research Design Workshop"）」において、研究構想・計画について報告し、学位論文執筆を開始する水準にあると判断されなければならない。 ・2年次を終えるまでに実施することが望ましい。
	学生➡指導教員	Reviewの実施日時、審査委員の選出等を、指導教員に依頼する。 ※周知期間確保のため、実施日はなるべく2週間後以降に設定。
	指導教員➡学務チーム	Reviewの実施日時、場所、審査委員名を学務チームに報告する。
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所を、HPで周知する。
	学生、審査委員	【Proposal Review（研究計画構想）実施】
	指導教員➡学務チーム	学位論文執筆を開始する水準にあるか否か（合格・不合格）、指導教員は、Review実施後速やかに所定様式により報告
	指導教員	Reviewが実施された旨、教育会議で報告
段階 2	行為者	内容
Interim Review（予備審査）		Proposal Reviewにおいて、学位論文執筆を開始する水準にあると判定された者で、博士論文全体のドラフト（予備審査論文）を提出した者は、Interim Reviewに参加できる。
	学生➡指導教員	博士論文全体のドラフト（以下、予備審査論文）を完成後、指導教員にInterim Reviewの実施について内諾をとる。
	学生➡学務チーム	内諾がとれたことを学務チームに報告する。
	学務チーム➡指導教員	Reviewの実施時期、審査委員（案）の選出等を依頼。 ※周知期間確保のため、実施日は、なるべく2週間後以降に設定。
	指導教員➡学務チーム	主査／審査委員（案）及び実施日時・場所を決定のうえ、学務チームに報告。 ※実施日時・場所が未定の場合は、決定次第報告。
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所（案）を、HPで周知。
	審査委員会（主査）	教育会議にて、審査委員会の設置、審査委員の構成について説明、付議。
	学生、審査委員会	【Interim Review（予備審査）実施】
	主査➡学務チーム	Review実施後速やかに、所定様式により、判定結果を報告（合格、条件付き合格、不合格）。
	審査委員会（主査）	教育会議にて、審査結果の報告、付議。
段階 3	行為者	内容
Final Review（最終審査・本審査）		Interim Reviewに合格した者は、学位論文を提出できる。
	学生➡指導教員	博士論文完成後、指導教員にFinal Reviewの実施について内諾をとる。
	学生➡学務チーム	内諾がとれたことを学務チームに報告する。
	学生➡学務チーム	学位申請論文、論文の内容の要旨等、所定書類一式を提出
	学務チーム➡指導教員	Reviewの実施時期、審査委員（案）の選出等を依頼。 ※周知期間確保のため、実施日は、なるべく2週間後以降に設定。
	指導教員➡学務チーム	主査／審査委員（案）及び実施日時・場所を決定のうえ、学務チームに報告。 ※実施日時・場所が未定の場合は、決定次第報告。
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所（案）を、HPで周知。
	審査委員会（主査）	教育会議にて、審査委員会の設置、審査委員の構成について説明、付議（メール審議も可）。
	学生、審査委員会	【Final Review（最終審査・本審査）実施】
	主査➡学務チーム	Review実施後速やかに、所定様式により、判定結果を報告（合格、不合格）。
	審査委員会（主査）	論文審査、最終試験を終了したときは、直ちに論文の内容の要旨、論文審査の結果の要旨、最終試験の結果の要旨に、学位を授与できるか否かの意見を添え、教育会議に文書で報告しなければならない。
	学生➡学務チーム	本審査終了後の論文及び提出書類

1.学位審査のスケジュール（概要）

2025年3月現在

日付：2025年度の場合
青:会議日程及び審議等事項(教＝教育会議)

学生の 学年	2026年 3月修了者			審査(レビュー)等	2025年 9月修了者			備考
	年	月	会議開催日、提出期限等		年	月	会議開催日、提出期限等	
～2年生	2025	3		プロポーザル・レビュー(研究計画構想)	2024	8		各レビュー開催2週間前にHPで公表、公開で実施 プロポーザル・レビューは、2年次を終えるまでに実施することが望ましい。
3年生～		4			↓	9		
		～		合格	2025	～		
		10	10/15(教)	合格の報告(教育会議)		4	4/2 (教)	プロポーザル・レビュー結果は教育会議報告のみ(審議不要)。
		11		予備審査論文完成		5		
		11	11/12(教)までに	審査委員会の設置承認(教育会議)		5	5/21 (教)	
		11		インテリム・レビュー(予備審査)		5/6		各レビュー開催2週間前にHPで公表、公開で実施。
		11				6		
		11		合格		6		
	↓	12	12/10(教)	合格の承認(教育会議)		6	6/18 (教)	インテリム・レビューの結果(判定)は、教育会議の議を経る。
	2026	1	1月上旬までに	論文、論文題目等提出		7	7月上旬までに	内規により日程確定
		1	1/21(教)	審査委員会の設置承認(教育会議)		7	7/9(教)	メール審議も可
		2	2/18までに審査結果を 学務チームへ報告	ファイナル・レビュー(最終審査・本審査)		8	8/6までに審査結果を 学務チームへ報告	各レビュー開催2週間前にHPで公表、公開で実施。
		2				8		
		2		合格		8		
		3	3/11(教)	ファイナル・レビュー合格の報告、学位授与可否議決		8	8/20(教)	教育会議で審査結果を報告し、その報告をもとに教育会議で学位授与可否を議決。
			学務チームが指定する期日までに	審査後の論文提出			学務チームが指定する期日までに	
		3	3/24(TBD)	修了(学位授与)		9	9/19(TBD)	
修了後	↓			学位論文公表	↓			

<注>

●上記は、**定期修了（3月または9月修了）**を希望する年月ごとに、各レビュー実施のデッドラインとなる年月を示したものである。

●**定期外の修了（3月または9月以外の修了）**を希望する場合は、上記の予定とは異なるスケジュールとなるため、早めに公共政策学務チームに相談すること。なお、定期外修了の場合は、本教育部、ならびに本学の離籍日も修了確定と同時であるため、留意すること。

●実際の審査スケジュールは指導教員と充分に相談すること。例えば、インテリム・レビューに時間を要すると指導教員が判断した場合には、上記目安より早い段階でプロポーザル・レビューに合格することが求められることがある。また、研究の進捗状況によっては、修了までに3年以上要する場合がある。経済系の場合、指導教員によってはプロポーサル・レビューの前に論文がほぼ完成している状態が求められる場合がある。この場合、プロポーサル・レビューは修了予定時期の約半年前に行われ、インテリム・レビューとファイナル・レビューはプロポーサル・レビューの直後に順次実施される。

2.学位審査のスケジュール（詳細）

2025年3月現在

略称：学務チーム＝公共政策学務チーム			2026年3月修了	2025年9月修了		
段階 1	行為者	内容	時期	時期	博士の学位審査に関する内規	「内規」についての申合せ
Proposal Review（研究計画構想）		・学位を申請しようとする者は、研究計画の段階で、「課題研究構想ワークショップ（"Research Design Workshop"）」において、研究構想・計画について報告し、学位論文執筆を開始する水準にあると判断されなければならない。 ・2年次を終えるまでに実施することが望ましい。	2年次を終えるまでに実施することが望ましい。	2年次を終えるまでに実施することが望ましい。	第2条	3. Proposal Reviewに関する事項(1)、(2)
	学生➡指導教員	Reviewの実施日時、審査委員の選出等を、指導教員に依頼する。 ※周知期間確保のため、実施日はなるべく2週間後以降に設定。	実施2週間前より前に依頼。	実施2週間前より前に依頼。		(3)
	指導教員➡学務チーム	Reviewの実施日時、場所、審査委員名を学務チームに報告する。	実施2週間前迄に報告。	実施2週間前迄に報告。		(5)
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所を、HPで周知する。	実施2週間前に周知。	実施2週間前に周知。		(6)
	学生、審査委員	【Proposal Review（研究計画構想）実施】	2025年10月上旬迄	2025年3月末迄		(3)、(4)
	指導教員➡学務チーム	学位論文執筆を開始する水準にあるか否か（合格・不合格）、指導教員は、Review実施後速やかに所定様式により報告。	提出期限（合格） 下記会議前迄	提出期限（合格） 下記会議前迄		(7)
	指導教員	Reviewが実施された旨、教育会議で報告。	2025年10月教育会議(10/15)	2025年4月教育会議(4/2)		

			2026年3月修了	2025年9月修了		
段階 2	行為者	内容	時期	時期	博士の学位審査に関する 内規	「内規」についての申合せ
Interim Review (予備審査)		Proposal Reviewにおいて、学位論文執筆を開始する水準にあると判定された者で、博士論文全体のドラフト（予備審査論文）を提出した者は、Interim Reviewに参加できる。	Final Reviewのための審査委員会を1月教育会議で設置することを想定し、Interim Reviewは、2025年11月迄に実施	Final Reviewのための審査委員会を7月教育会議で設置することを想定し、Interim Reviewは、2025年6月中旬迄に実施	第2条	4．Interim Reviewに関する事項(1)、(2)、(3)
	学生➡指導教員	博士論文全体のドラフト（以下、予備審査論文）を完成後、指導教員にInterim Reviewの実施について内諾をとる。				
	学生➡学務チーム	内諾がとれたことを学務チームに報告する。				
	学務チーム➡指導教員	Reviewの実施時期、審査委員（案）の選出等を依頼。 ※周知期間確保のため、実施日は、なるべく2週間後以降に設定。	2025年11月上旬迄	2025年 5 月中旬迄		(4)
	指導教員➡学務チーム	主査／審査委員（案）及び実施日時・場所を決定のうえ、学務チームに報告。 ※実施日時・場所が未定の場合は、決定次第報告。	2025年11月上旬迄	2025年 5 月中旬迄		(5)、(6)、(7)、(8)
	審査委員会（主査）	教育会議にて、審査委員会の設置、審査委員の構成について説明、付議。	2025年11月教育会議（11/12）	2025年5月教育会議(5/21)		(9)、(10)
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所（案）を、HPで周知。	周知期間2週間を確保	周知期間2週間を確保		(4)
	学生、審査委員会	【Interim Review（予備審査）実施】	2025年11月末迄	2025年6月中旬迄		(5)
	主査➡学務チーム	Review実施後速やかに、所定様式により、判定結果を報告（合格、条件付き合格、不合格）。	下記会議前迄	下記会議前迄		
	審査委員会（主査）	教育会議にて、審査結果の報告、付議。	2025年12月教育会議(12/10)	2025年6月教育会議(6/18)		(11)、(12)

			2026年3月修了	2025年9月修了		
段階 3	行為者	内容	時期	時期	博士の学位審査に関する 内規	「内規」についての申合せ
Final Review (最終審査・本 審査)		Interim Reviewに合格した者は、学位論文を提出できる。			第11条	5. Final Reviewに関する 事項 (1)
	学生➡指導教員	博士論文完成後、指導教員にFinal Reviewの実施について内諾をとる。				
	学生➡学務チーム	内諾がとれたことを学務チームに報告する。				
	学生➡学務チーム	学位申請論文、論文の内容の要旨等、所定書類一式を提出	論文等提出期限： 2026年1月上旬迄	論文等提出期限： 2025年7月上旬迄	第 7 条	
	学務チーム➡指導教員	Reviewの実施時期、審査委員（案）の選出等を依頼。 ※周知期間確保のため、実施日は、なるべく2週間後以降に設定。	2026年1月下旬迄	2025年7月上旬迄		(2)
	指導教員➡学務チーム	主査／審査委員（案）及び実施日時・場所を決定のうえ、学務チームに報告。 ※実施日時・場所が未定の場合は、決定次第報告。	2026年1月下旬迄	2025年7月上旬迄		(2)、(4)、(5)、(6)、(7)、 (8)
	審査委員会（主査）	教育会議にて、審査委員会の設置、審査委員の構成について説明、付議（メール審議も可）。	2026年1月教育会議(1/21)	2025年7月教育会議(7/9)	第10条	(4)、(5)、(6)、(7)、(8)
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所（案）を、HPで周知。	周知期間2週間を確保	周知期間2週間を確保		(2)
	学生、審査委員会	【Final Review（最終審査・本審査）実施】	2026年2月下旬迄	2025年8月上旬迄	第11条	(3)、(9)
	主査➡学務チーム	Review実施後速やかに、所定様式により、判定結果を報告（合格、不合格）。	2026年2月18日迄	2025年8月6日迄		
	審査委員会（主査）	論文審査、最終試験を終了したときは、直ちに論文の内容の要旨、論文審査の結果の要旨、最終試験の結果の要旨に、学位を授与できるか否かの意見を添え、教育会議に文書で報告しなければならない。	2026年3月教育会議(3/11)で報告	2025年8月教育会議(8/20)で報告	第12条	
	学生➡学務チーム	本審査終了後の論文及び提出書類	学務チームが指定する期日までに	学務チームが指定する期日までに		

			2026年3月修了	2025年9月修了		
段階 4	行為者	内容	時期	時期	博士の学位審査に関する 内規	「内規」についての申合せ
学位授与議決	教育会議	【教育会議にて学位授与の可否の議決】	2026年3月教育会議(3/11)	2025年9月教育会議(8/20)	第13条	
学位授授与式、 伝達式	東京大学／公共政策 学教育部	学位記授与式、学位記伝達式	2026年3月24日（予定）	2025年9月19日（予定）		
学位論文の公表	東京大学／公共政策 学教育部	学位論文の公表	2026年6月下旬（未定）	2025年12月中旬（未定）	第15条	

※満期退学の場合	行為者	内容	3月修了	9月修了	博士の学位審査に関する 内規	「内規」についての申合せ
課程博士（満期 退学）	★単位取得満期退学 者	満期退学後3年以内に限り予備審査及び学位論文審査 と最終試験を受けることができる。 <u>ただし、退学前に 研究計画構想発表（Proposal Review）において学位論文 執筆を開始する水準にあると判断されることが必要。</u>	Interim Review以降は、上記ス ケジュールに同じ	Interim Review以降は、上記ス ケジュールに同じ	第14条	

- ★単位取得満期退学者とは、次の要件を満たす者のことを言う。
- ・ 課程を修了するに必要な年数以上在学したこと
 - ・ 課程を修了するに必要な所定の単位を修得したこと
 - ・ 加えて、公共政策に於いては、退学前に、Proposal Reviewに合格していることが求められる。

<注>

- 上記は、**定期修了（3月または9月修了）**を希望する年月ことに、各レビュー実施のデッドラインとなる年月を示したものである。
- **定期外の修了（3月または9月以外の修了）を希望する場合は、上記の予定とは異なるスケジュールとなるため、早めに公共政策学務チームに相談すること。**
- 実際の審査スケジュールは指導教員と十分に相談すること。例えば、インテリム・レビューに時間を要すると指導教員が判断した場合には、上記目安より早い段階でプロポーザル・レビューに合格することが求められることがある。また、研究の進捗状況によっては、修了までに3年以上要する場合がある。経済系の場合、指導教員によってはプロポーサル・レビューの前に論文がほぼ完成している状態が求められる場合がある。この場合、プロポーサル・レビューは修了予定時期の約半年前に行われ、インテリム・レビューとファイナル・レビューはプロポーサル・レビューの直後に順次実施される。
- 各レビューの判定において、条件付き合格や不合格となった場合、再提出や再レビューのスケジュールは指導教員と十分に相談すること。